



特集

けいざんぜんじ
瑩山禅師ものがたり ⑦



仏道への決意が不動のものになった
そんな瞬間が十九歳の夏に訪れます

行脚の旅を終えて

一年近い雲水修行で、各地の高僧たちを訪ねて行脚された瑩山さま。再び寂円さまが待つ宝慶寺に戻って来られました。

宝慶寺は、永平寺の南、現在の福井県大野市のさらに十キロ南にあります。雪深く樹氷でも有名な銀杏峰に抱かれた山中にあり、山里からも遠く離れた、修行にはうつつけの地。ここに寂円さまは、道元さまと一緒に修行した中国の景德寺そっくりの宝慶寺を建てたのです。宝慶寺は永平寺の奥の院とも呼ばれています。

修行僧のまとめ役に

雲水修行から帰り着いた瑩山さまを一

目見るなり、寂円さまは一段とりりしさを増した瑩山さまに驚かれます。

「おう、瑩山、良いところに帰って来られた。維那を誰にしようかと迷っておったところじゃ。そなたに任せたい」

維那というのは、修行僧のまとめ役で、時には修行僧を指導しなければならぬ重要な役目です。瑩山さまは一心にこの役に取り組まれました。修行僧の多くもよくなつきましたが、一部には瑩山さまに従わず、陰で悪口をいう者さえいました。

心底からの怒りを押さえきれず

「修行僧は一人で修行してはならぬ。みんなと離れて勝手な行動をとってはならぬ」

No. 62
2021 Spring

がんしょうざん
含松山
臨南寺

修行僧が間違った方向に走らぬように、師の懐契さまから厳しく教えられていた瑩山さま。修行僧たちにもそう言い聞かせていましたが、ある日、日頃から反抗的な態度を取りがちな修行僧の一人が、「悟りは自分でひらくもの。修行は群れてするものではない」と言うのです。

それを聞いた瑩山さまは、心の底から怒りがわくのを押さえきれず、
「その考えは間違っておる」
と言うが早いか、そばにあった警策を手に取って打ち据えようとなりました。

鳴り響くお母さまの声

その時、瑩山さまの心に飛び込んできたのが、お母さまの声でした。

「お前の唯一の欠点は短気なことです。どんなに優れた人物でもすぐに腹を立てるようでは、人々の役に立つことはできません。どうか優しいお坊さんになつてください。観音さまと見守っていますよ」

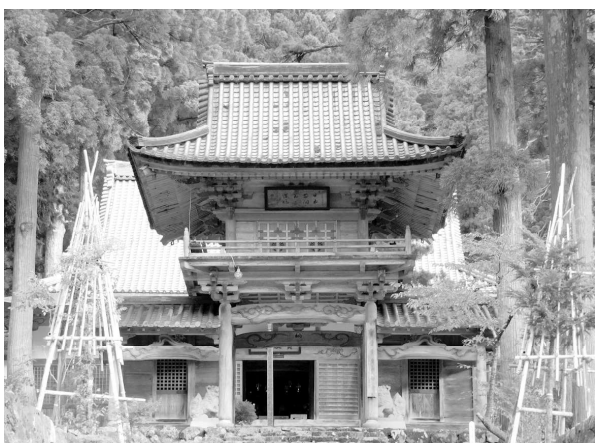
大きく響くその声に、我に返った瑩山さまは冷静さを取り戻しました。手にあつ

不退転の決意を胸に

「思えば、ありがたいの一言だ。私の願いは、一人でも多くの人々を教え導くこと。その願いを台無しにしかねない、大きな過ちを犯すところだった。危ない、危ない」

その日を境に瑩山さまは、いつも笑顔を絶やさない穏やかな心優しい維那に変わりました。

後に瑩山さまは、「十九歳にして菩提心をおこし、不退転の位に至った」と述べられています。仏道への決意が不動のものになった瞬間だったのです。



永平寺の奥の院とも呼ばれる宝慶寺

早や父の年となりけり春彼岸

高野清風

三月二十三日の彼岸会には ぜひ、お参りください



春分の日を中日とし、前後三日
ずつをあわせた七日間が「お彼岸」
です。今年は、三月二十日が「彼岸
の中日」、十七日が「彼岸の入り」、
二十三日が「彼岸結願」になりま
す。

お彼岸は、平安時代の初めに貴
族から始まり、江戸時代には庶民
に広まりました。春分の日には太
陽が真西に沈みます。「西方浄土
を拜むのに最適だ」と定着したよ
うです。

疫病や悩みが多く先行き不透
明なこの世を「此岸」といいます。
「彼岸」は迷いや苦しみのない心
安らかなあの世のこと。お彼岸の
七日間は、気持ちよく彼岸に旅立
てるよう、生き方を見直し、善行
を施し、ご先祖様に感謝をささげ
る大切な時間です。



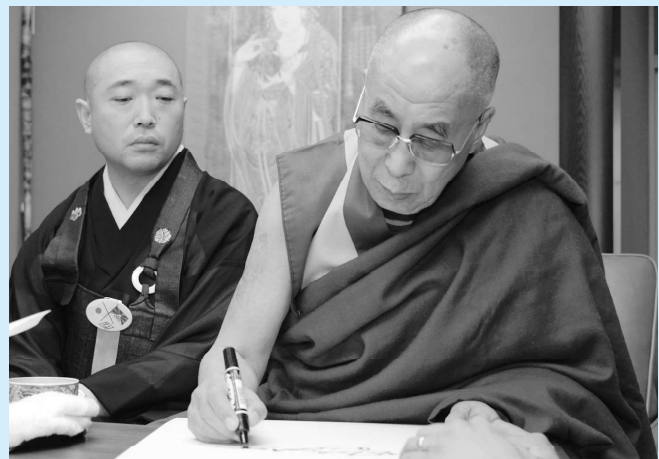
ご家族そろってご先祖様に感謝をささげましょう

臨南寺では、彼岸結願の二十三
日午後二時から彼岸会施食会を修
行いたします。ぜひ、彼岸会にお
参りいただき、ご先祖様に手を合
わせましょう。当日ご都合の悪い
方は、不参でのご回向をお受けい
たしますのでお問い合わせくださ
い。
なお、新型コロナウイルスの感染
状況によっては中止されることも
ありますのでご注意ください。



ダライ・ラマ法王に 揮毫していただき ました

平成二十六年(二〇二四)四月九日、
臨南寺において、ダライ・ラマ法王
下の特別講演会が開かれました。
本堂前に千人近い聴衆が集まり、



大澤住職に見守られながら揮毫されるダライ・ラマ法王殿下



本堂への通路に掛けられたダライ・ラマ法王殿下のご揮毫

法王殿下の言葉に聞き入りまし
た。もうすぐ七年が過ぎようとし
ています。
その時にダライ・ラマ法王殿下に
ご揮毫いただいたのが、写真の額です。
チベット語で「すべての生きとし生け
るものが幸せでありますよう祈って
います。釈迦の弟子 ダライ・ラ
マ」と書かれています。寺務所のある
圓通閣から本堂に向かう通路の
右側に掛けられています。お参りの
節は、どうぞご覧ください。

長いトンネルの先にも 必ず出口はあります

檀信徒の皆様におかれましては、
新型コロナウイルス感染症が蔓延
している状況下において、不安かつ
制限された日々をお過ごしのこと
と拝察いたします。

昨年一月に日本国内で初めて感

染者が確認されたというニュース
を観た時は、現在の状況を想像す
ることはできませんでした。お寺の
行持も、中止あるいは規模を縮小
して何とか修行して参りました。
檀信徒の皆様にも、葬儀の縮小、
法事の縮小または中止、月参りの
中止など様々な面において、ご協

力ご理解をいただいたことに御礼
申し上げます。いつまで続くか分
らない状況ではありますが、長い
トンネルの先に必ず出口があるこ
とを信じ、感染対策を講じながら
お過ごしいただきたいと思います。



臨南寺 住職
大澤正道

早いもので春のお彼岸が近づい
て参りました。お彼岸はご先祖
様に感謝をする大切な期間です。
皆様におかれましては、ご先祖様
を偲び今あることを感謝いたし
ましょう。

春のお彼岸以降の行持につき
ましても、例年通り予定してお
りますが、状況を見極めながらそ
のつどご案内させていただきます
ので、ご確認いただきたくお願
い申し上げます。

臨南寺行持予定 (三月・四月・五月)

○ **彼岸会 お墓経** ひがんえ はかぞえ
*三月十九日・二十日 午前十時～午後三時
(受付は随時)

お彼岸のお墓経を行います。臨南寺にお墓をお持ちの方に限ります。
(回向料二万円)

○ **マトリお墓経** はかせつ
*三月十九日・二十日 午前十時～午後三時
(受付は随時)

お彼岸のお墓経を承ります。お申込み多数の場合は各家ご同席で読
経いたします。(回向料二万円)

○ **春季彼岸会 施食会** ひがんえ せじきえ
*三月二十三日 本堂にて
午後二時～午後三時三十分

お彼岸供養の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝する大事な
期間です。ご先祖様を偲び今あることに感謝いたします。どなた
でもご参加いただけます。(回向料二万円)

○ **釈尊降誕会(花祭り)** しゃくそんかうたんえ
*四月八日 本堂にて
お釈迦様の御誕生日に、感謝と報恩の法要を行います。

○ **がつしょう園マトリ合同法要** *五月九日 午後一時～
マトリにご納骨された方々の慰霊の法要を行います。法話のあとにマ
トリでご焼香していただきます。

*なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、中止することや変更す
る場合もございます。臨南寺の行持については、臨南寺のホームページで
ご確認いただくか、電話でお問い合わせください。
寺務所の電話 ○六・六六九八・二〇二(九時～十七時)

早朝坐禅会、写経会とも

しばらくお休みさせていただきます。
ご了承ください。

弁財天祈禱会を 参拝者なしで修行しました

新しい年を迎えた二月十五日、臨南寺では恒例の弁財天祈禱会が修行されました。いつもなら大勢の参拝の方々と賑わう境内ですが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大のためにご参拝を中止させていただきました。



コロナ禍の一日も早い終息をご祈念いたしました

本堂では僧侶だけで、『大般若波羅蜜多經』六百巻を転読し、新型コロナウイルスの猛威が一日も早く終息し、新しい年が安らかで穏やかにありますように心を込めて祈願いたしました。

お申込みのあったお檀家様には、無病息災と家内安全を願つて、お札、お守り、守護矢とともに、「元三大師」の疫病退散の護符を郵送させていただきました。



「元三大師」の護符で疫病退散を

三月場所は 大阪に来ませんが 「竜勢」にご声援を



お墓参りにも マスクを忘れずに



お墓参りされる方の中にたまたまマスクをされていない方を見掛けします。新型コロナウイルスに「うつらないため」にも「うつさないため」にも、マスクは必要です。マスクのご着用を忘れずお願いします。もう二つ手指の消毒ですが、休憩所にアルコール消毒液をご用意しております。どうぞご自由にお使いください。何かとご不便をおかけしますが、私たち一人ひとりが身の回りからウイルスを遠ざけるためにご協力をお願いします。

編集後記

コロナ禍で暮らしぶりにも変化が出始めたようです。飲み友達を誘っても、ていよく断られる日が続きました。「飲酒の習慣やめて体調すっきり」という新聞の投書を読んで、昼飲みをやめ晩酌を減らしました。確かに体の調子は悪くない。これもコロナのおかげ?(M)

例年なら大阪で開かれる大相撲三月場所、今年はコロナ禍のため東京で開催されます。いつもこの時期に境内に来る鏡山部屋も姿を見せません。

一月場所では幕下優勝が九人の力士によって争われました。鏡山部屋の竜勢は六勝一敗で九人の一人に食い込みました。三月場所の成績次第では新十両に上がれるチャンスです。三月十四日から始まります。ご声援をよろしくお願いします。

「ほ〜っと」62号

令和3年2月

編集・発行： 稜伽林「ほ〜っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com